

二〇〇九年十一月

平城宮発掘調査出土木簡概報(三)

付 平城宮発掘調査出土木簡概報(二)訂正

奈良文化財研究所



6



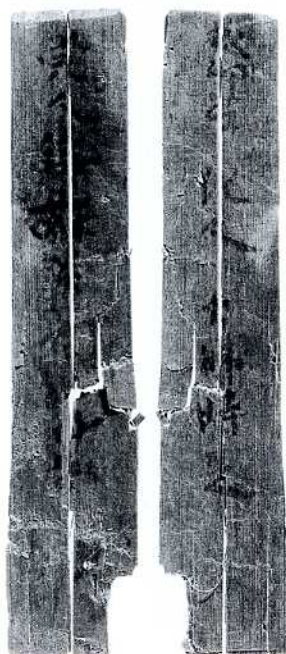
8



1



2



127
(1 : 2)



87





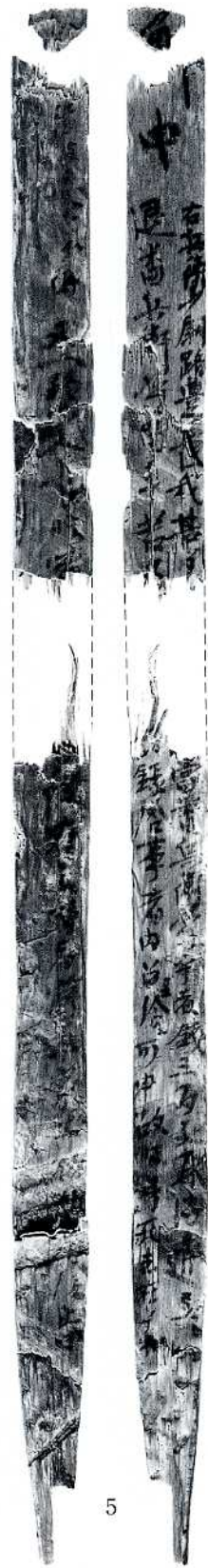
33



3



17



5

(1 : 2, 5のみ1 : 3)



16



24



11

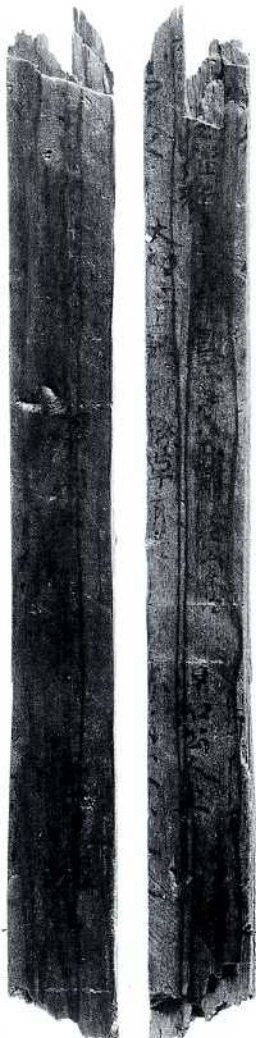
(1 : 2, 16のみ 2 : 5)



15



13



31



37



88



49



58



20



70



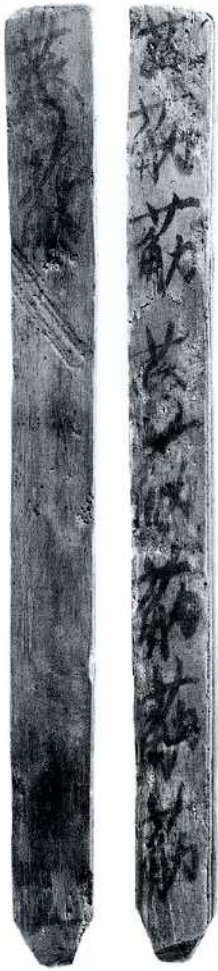
71



25



(1 : 2)



103



7



9



72



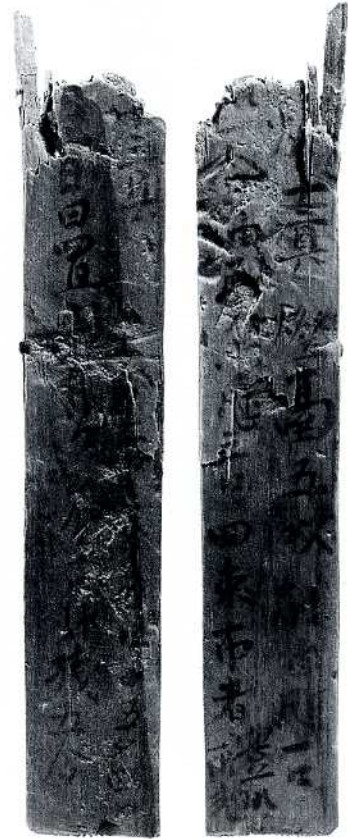
68



84



22



12



82



76



69



75



74



79



78



80



83



81



98



99



100a



97





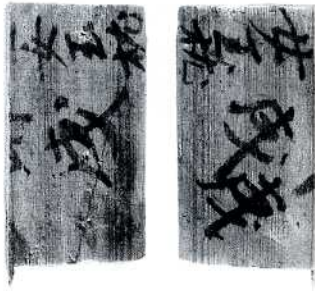
4



102



86



106



96

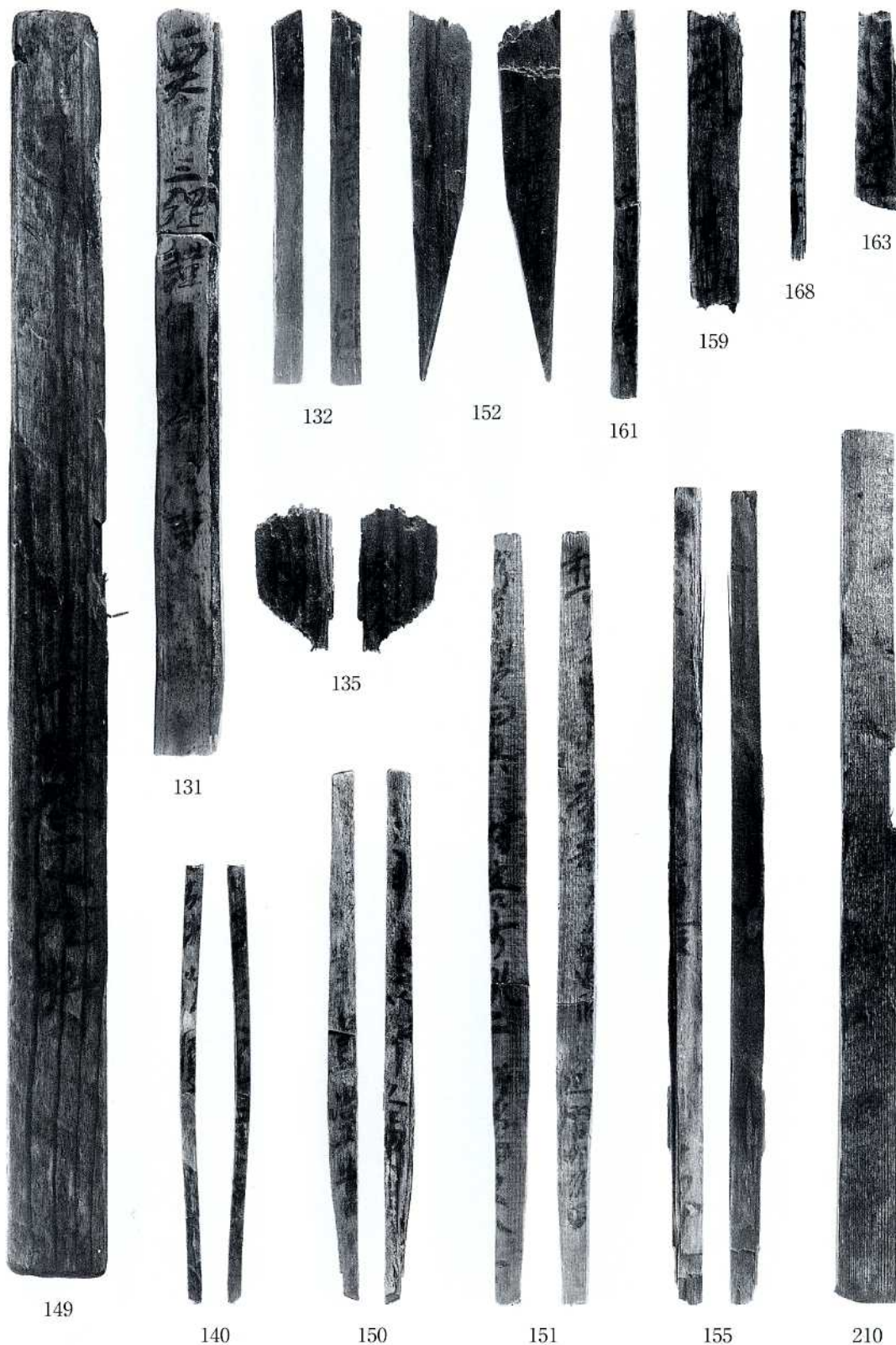


85



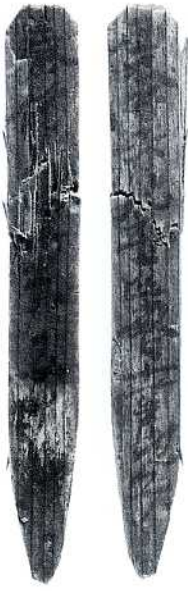
73

图版九





185



190



187



186



184



175



191



182



183



189



207



200



194



193



195



204



196



206



192



222



221



219



218



217



215



213



229



228



227



234



233



230



242



238



237



226



248



247



246



235



266



261



262



253



251



258



249



257



252



287



288



274



289



279



272



270



319



276



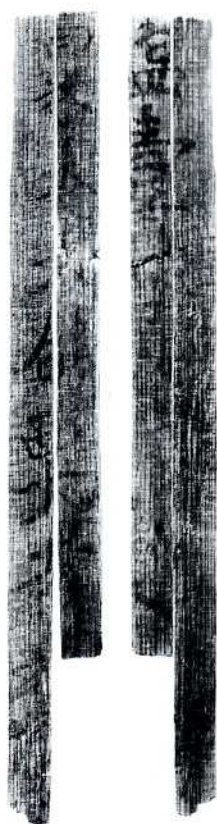
275



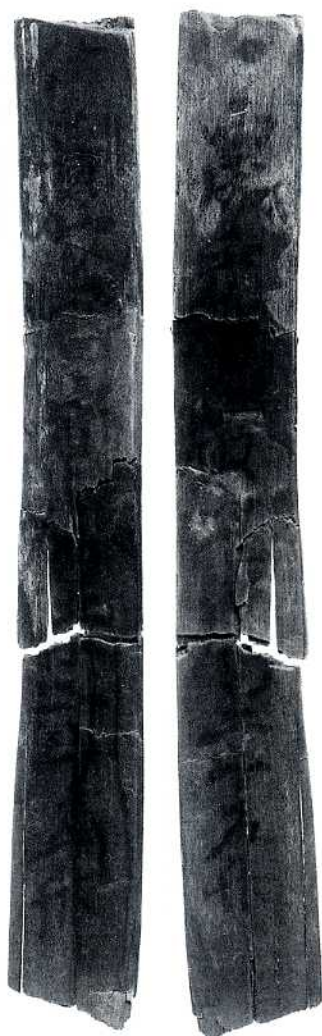
281



271



54



71



51 + 66



36



38

この概報には、先に公刊した『平城宮発掘調査出土木簡概報（三十八）』（二〇〇七年十一月刊）以後に平城宮跡から出土した木簡のうち主要なもの、及び同書の一部を報告した「西大寺食堂院木簡」の統報を収録する。

一、木簡の出土地点と状況

第四二九・四四〇次調査（6A F区）

（二〇〇八年一月～四月、二〇〇八年十二月～二〇〇九年二月）
平城宮第二次大極殿院・東区朝堂院・朝集殿院の東側には、南北に大きく四区画の官衙ブロックが連なり、東方官衙と呼んでいる。この各官衙ブロックについて、六m幅のトレンチを東西方向と南北方向に設け、遺跡の概要を把握するための発掘調査を北から順に進めており、第四二九次調査はその第二年にあたる。調査面積は、計一三一四㎡である。

東方官衙のトレンチ調査の最重要課題は、内裏の東を南流する基幹排水路SD二七〇〇の行方である。真南にあたる地点には朝堂院南方官衙が位置するから、SD二七〇〇はここまでは達せず、四ブロックのいずれかの境で東に折れ、東方官衙と東院の間の宮内道路の西側溝にあたる南北溝SD三四一〇に合流していたとみられる。

調査の結果、SD二七〇〇は、北から二つめの官衙ブロックにおいてもまっすぐ南流していることが明らかになった。埋土は砂礫で

かなりの水量があった状況を示す。内裏東側でみられたような堅固な石積み護岸はなく、簡素な杭による護岸が残るだけである。今回南北トレンチ南端で東西方向の直線的な溝を検出したが、埋土は粘土と木屑の層を主体とし、SD二七〇〇とは全く様相を異にしている。このため、SD二七〇〇がここで東折したのか、それとも朝堂院東門から東に延びる宮内道路を越えて三つ目の官衙ブロックに達していたのかの最終的判断は、次回の調査成果を俟つ必要がある。

SD二七〇〇の東西で官衙の様相は大きく異なる。西側では官衙の東西幅いっぱい展開する二棟の倉庫とみられる礎石建ち総柱建物を検出した。配置からみて大規模な倉庫群を構成していたとみられ、民部省廩院の可能性が考えられる。

一方東側では、密度の高い掘立柱建物群を検出したが、トレンチ調査であるため、全体的な配置や遺構変遷を確定するには至っていない。その中で、調査区南部の官衙ブロック南辺に近い部分で、大規模な廃棄土坑SK一九一八九の東端部分を検出し、多量の削屑を含む木屑層の存在を確認したため、遺構の全容を把握した上で、遺物の取り上げを図るべく実施したのが第四四〇次調査である。調査面積は、一部第四二九次調査と重複させた計二五五㎡である。

木簡は、南北溝SD二七〇〇（第四二九次調査）から七七点（うち削屑五九点）、土坑SK一九一八九から約二〇〇点の他、南北トレンチ南端の東西溝SD一九一九三やその北の土坑からも出土したが、整理のため、次号以降に報告することとする。

南北溝SD二七〇〇 南北方向の基幹排水路で、三時期の変遷を確
認した。一番古い時期の溝Iは、両岸を径一〇cm前後の木杭で護岸
する。溝幅は木杭の心々で約二・八m、深さは現状で五〇cm以上あ
る。堆積は下半が少量の木質遺物を含む砂層、上部が大きな瓦の破
片を多数含むシルトで、木簡は砂層から出土した。その後溝幅を三
・五m以上に広げ褐色の砂礫の堆積を主体とする溝II、さらに東側
へ拡張し礫を主体とする溝幅最大三・八mの溝IIIを設けている。い
ずれからも多量の土器と瓦が出土した。

土坑SK一九一八九 東西約一一m南北約七mの規模の土坑で、深
さは約一m、壁は比較的直に立ち上がる。東方向へ二回の拡張を経
て前述の規模になったとみられる。レンズ状に堆積する木屑層は分
厚いところでは厚さ五〇cmにも達する。土坑上部の輪郭部分には炭
層が廻っており、これは木屑層が次第に炭層に遷移し、土坑の壁面
に沿って立ち上がる様相を呈する。このことから、この土坑は単な
る廃棄土坑ではなく、平城宮では初めての焼却土坑の可能性が高
い。周辺は一時期ゴミ処理場として機能していたとみられ、SK一
九一八九の西にも同様の焼却土坑がさらにいくつか点在する（但
し、いずれも調査区内では完結しないため、掘り下げは行わず、遺
物の取り上げは将来の全面調査に委ねることとした）。

SK一九一八九の木屑層からは木簡をはじめ、檜扇、杓子、サイ
コロなどのさまざまな木製品、平城宮IVを中心とする時期の土器、
瓦、種子など、多種多様の遺物が出土した。また、削屑も多量に含

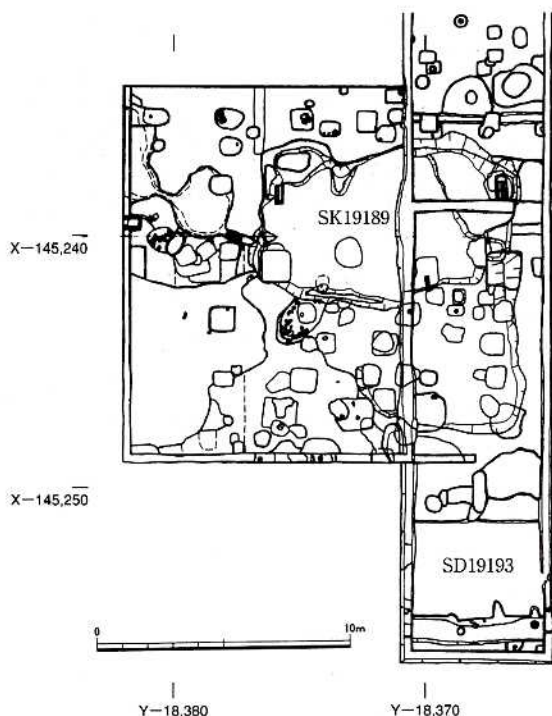


図1 第440次調査遺構平面図

まれていたため、埋土は全て土ごと持ち帰り、整理室で遺物の洗い
出しを進めている。埋土は遺物整理用コンテナで約二八〇〇箱にも
及び、洗浄だけで数年を要するとみられるが、最終的には数万点を
超え、これまでに平城宮跡で検出された木簡群を遙かに上回る規模
の木簡群になるとみられる。洗浄で出土した木簡については、今後
順次報告していく予定である。

なお、SK一九一八九やそれと一連の土坑に壊される形で、平城

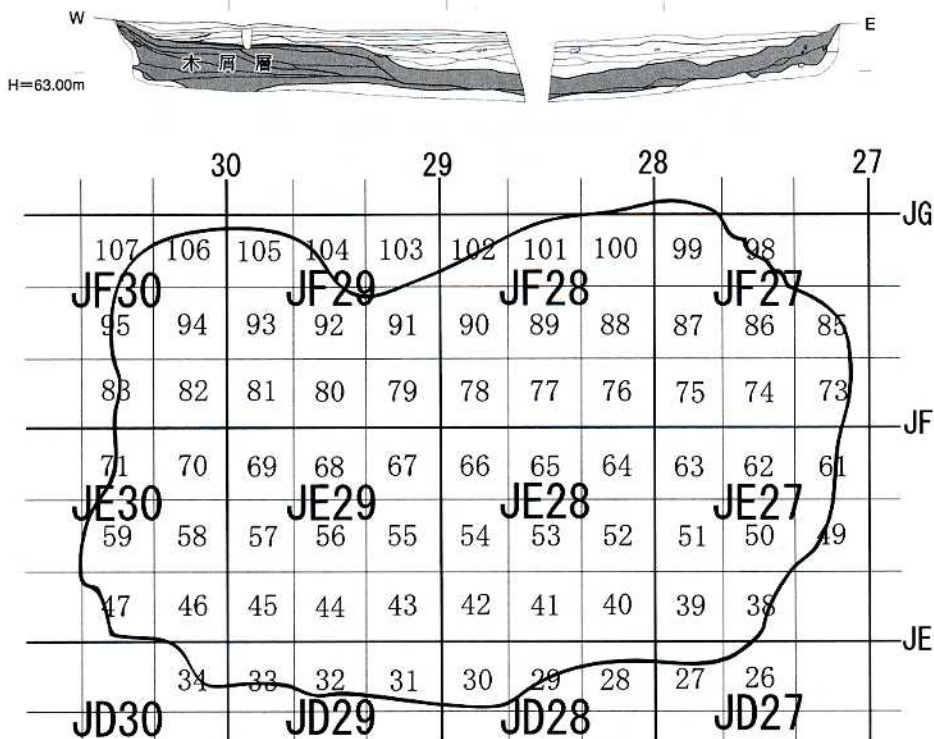


図2 土坑SK19189断面図(JFライン東西畦 北面反転)(上)と地区割図(下)

官では初めてとなるトイレの可能性のある遺構を検出した。埋土の分析から人糞に由来する事が判明し、また瓜の種子や籾木も多数出土したが、糞溜めの可能性もあり、トイレとは断定できない。籾木には若干墨書の残るものがあり、木簡を二次利用したものと思われるが、文字として釈読できるものはなかった。その他の遺構の詳細については、『奈良文化財研究所紀要二〇〇九』を参照されたい。

第四〇四・四一〇・四一五次調査
(6B5DD区)

(二〇〇六年五月〜一〇月)

平城京跡右京一条三坊八坪(西大寺旧境内食堂院推定地)において実施した、マンション建設に伴う発掘調査である。木簡は井戸SE九五〇から出土した。持ち帰ったコンテナ約一二〇〇箱分の埋土の洗浄を進めた結果、木簡の全貌が明らかになったので、前号刊行以降に明らかになった主な木簡を紹介する。遺構などの詳細については、前号を参照されたい。

表1 西大寺食堂院木簡点数表

層位	IC70		1B70		IZ70		小計		計
	木簡	削屑	木簡	削屑	木簡	削屑	木簡	削屑	
井戸枠	1	0	0	0	0	0	1	0	1
井戸枠内a	1	0	0	0	0	0	1	0	1
井戸枠内b	2	23	1	1	0	0	3	24	27
井戸枠内c	13	121	5	24	0	0	18	145	163
井戸枠内c木屑層	19	55	1	6	0	0	20	61	81
井戸枠内d	58	215	34	90	1	0	93	305	398
井戸枠内d木屑層	243	982	121	345	0	0	364	1327	1691
井戸枠内e	26	137	17	98	0	0	43	235	278
井戸枠内z	12	11	4	2	3	2	19	15	34
攪乱	9	3	2	1	0	0	11	4	15
小計	384	1547	185	567	4	2	573	2116	—
計	1931	—	752	—	6	—	—	—	2689

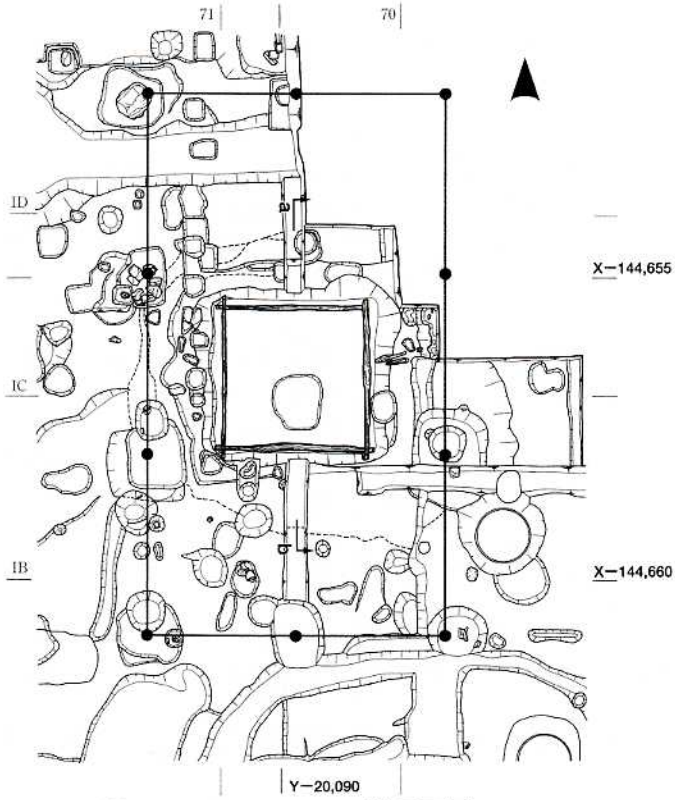


图3 SE950·SB951遺構平面図 1:120

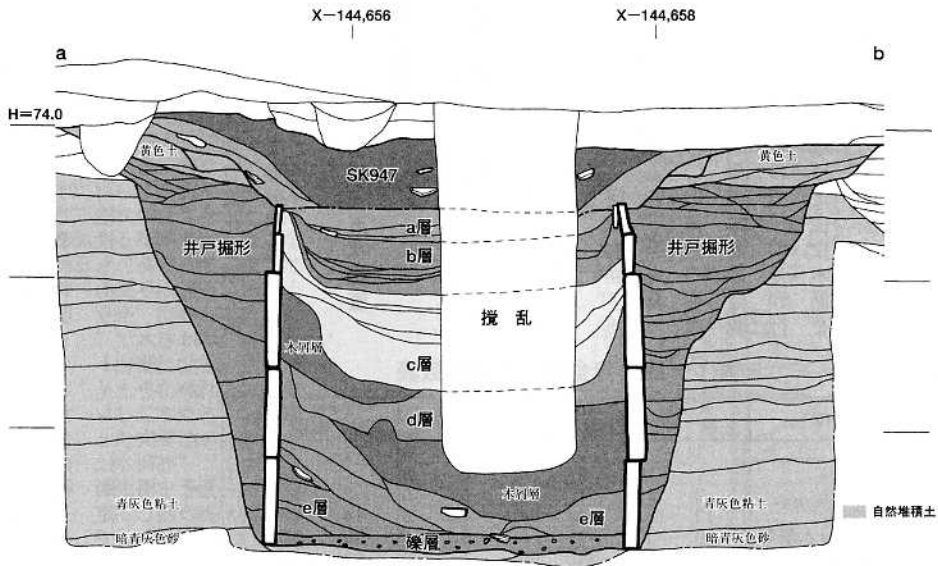


图4 SE950断面図 1:50

二、凡例

(一) 木簡は、内容により、文書、付札、その他の順に排列するのを原則とし、便宜的に通し番号を付した。

(二) 積文の漢字は、概ね現行常用字体に改めたが、「龍」「廣」「實」「證」「嶋」などについては右の字体を使用した。

(三) 積文に加えた符号は次の通りである。

- ・ 木簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。
- 木簡の上端もしくは下端に、孔が穿たれていることを示す。

…
— 同一木簡と推定されるが直接接続せず、中間の一字以上が不明なことを示す。

— 木目と直交する方向の刻線が施されていることを示す。

□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□□□ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□□□ 記載内容から、上または下に一字以上の文字を推定できるもの。但し、削屑については煩雑になるので、この記号は省略した。

■ 抹消により判読が困難なもの。

× 抹消部分の字画が明らかの場合に限り、原字の左傍に付した。

〔×〕 文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇所の左傍に・を付し、原字を上への要領で右傍に示す。

「」 異筆、追筆。

「」 合点。

〔 〕 校訂に関する註のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

() 右以外の校訂註、及び説明註。

カ 編者が加えた註で、疑問が残るもの。

マ、 文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

(四) 積文下のアラビア数字は、木簡の長さ・幅・厚さを示す(単位はmm)。欠損・二次的整形の場合、現存部分の法量を括弧付きで示した。なお、長さ・幅は木簡の文字の方向による。削屑については、法量の表記を省略した。

(五) 積文下の中段に、現在の遺存の形態を示す型式番号を記した。型式番号は次の通りで、四桁の数字を用いているが、本報では時代を示す千の位を省き、下三桁で表した。なお、幅とは、木簡を木目方向に置いた時の上下両端をいう。

6011型式 長方形の材のもの。

6015型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

6019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって、原形の失われたもの。原形は6011・6015・6032・6041・6051型式のいずれかと推定される。

6021型式 小型矩形のもの。

6022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。

6032型式 長方形の材の一端に左右に切り込みを入れたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6031・6032・6033・6043型式のいずれかと推定される。

6041型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作ったもの。

6043型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、左右に切り込みをもつもの。

6049型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にしているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6041・6043型式のいずれかと推定される。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6033・6051型式のいずれかと推定される。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。()内に製品

名を註記した。

6065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

6081型式 折損・割截・腐蝕その他によって、原形の判明しないもの。

6091型式 削屑。

括弧内の番号は、二次的整形の場合に推定できる原形の型式番号を表す。

(六) 釈文下の下段に出土地点を示す小地区名(アルファベット・数字)を記した。Zは地区不明を示す。複数の地区から出土した断片が接続した場合は、地区名を+で併記した。なお、第四〇次調査では、土坑SK一九一八九の遺物の取り上げを特に1mのグリッドを設定して行ったため、小地区名の次に「—」で1mグリッド名の数字を併記した(図2参照)。

(七) 釈文の出土地点の下に付した「*」印は、口絵写真に写真を掲げた木簡を示す。例えば、「*2」は「図版二」に対応する。

本書の作成は、都城発掘調査部史料研究室が行った。木簡の釈読には、渡辺晃宏・馬場基・山本崇・浅野啓介・桑田訓也があたり、古藤真平・井上幸がこれを補助した。編集に際しては、梅本有貴江・小池綾子・杉本敬子・寺尾淳子・松本大輔・南島真理子各氏の協力を得た。写真は企画調整部写真室の中村一郎の撮影による。本書の編集は渡辺晃宏が担当した。

三、積文

第四二九・四四〇次調査(6AAF区)
土坑SK一九一八九

(1・2ハ、木簡ヲ二次的ニ分割・整形シタモノデ、略同大ノ断片ヲ挟ンデ、コノ順ニ連続スルト考エラレル。)

- 1 秦福貴麻呂
- 私船守
- 小長谷麻呂

□具録如件謹以申聞謹□

(96)・(58)・9 011 JE27—63 *1

3 左衛士府宿奏 合九十三人

少尉正六位上□
大志正六位上□
(355)・(31)・6 081 JE29—43 *2

- 2 □□
- 宮部名足
- 伊部諸国
- 正八位下礮部石足
-

□□

4 謹解 申請出拳銭事

[合カ]

□二月廿四日正四位下行右大弁兼内□
(91)・(63)・6 011 JE28—64 *1

路 相知路並倉路並倉□

(243)・(23)・3 081 JE28—77 *8

- 5 右兵衛少尉路豊長我甚□

当番兵衛等乎者銭三百文取沽遣豆

□申 [解カ] 退番兵衛 □留辛苦 □ □請録給事者内召給可申故波身死去在乎米

□□後故人□不得 又一路豊長波道 ∴ □從在之替者藤原家子物知□給止申

(23+227+382)・33・5 059 JE28—76+JE28 *2

- 6 内廐寮移 中務省
 □ (213)・(13)・3 081 JF28—88 *1
- 7 請芻捌圍 城部毛三為
 道嶋毛毛毛
 行田口「弟麻呂」 八年十一月十二日石山御嶋
 (214)・45・3 019 JE30 *5
- 8 十四日不直若宮老子 日夕
 寶龜二年四月十四日 番長山代真勝
 久米枚夫 202・40・2 011 JF28—54 *1
- 9 廿日不 秦人成 高
 茨田廣足
 太道道月是是是是是是 (160)・(18)・4 019 JE28—54 *5
- 10 □□□□日夕 □□□□ (130)・(7)・2 081 JE27—51
- 11 内運物 折薦疊十枚 紺疊五枚 幄一具
 實九枚 黄二疊枚 赤短二枚 (ヤ、)
 □供物 短疊一枚 301・(25)・3 033 JF28—78 *3
- 12 燈十三具 燈台五枚 副油瓶一口 豊川
 □一合油受小甌三口四束布者 所充
 十三具 三合二口 二合五口□五夕四口
 □月□日日置内麻呂 一合一口炬残五合
 □□一升 (220)・37・6 019 JE28—66 *5
- 13 西宮守 六人部斐多麻呂 楮五月 伊香廣公
 伊賀人麻呂 茨田廣足 靱負摩
 十一月十日 248・33・4 011 JE27—63 *4
- 14 西宮 山辺奥人 猪人麻呂 丈部浄人
 丈部赤麻呂 田部豊成 酒部三方
 粟田人主 十一月□ 202・22・4 011 JF28—76+JF28—89

15 東宮守「□」□「□」□
丈部人根 若麻統犬甘「右高」

・若湯坐五百国「大夫夫□□」
「若重□□」□「□」□
「□」□

211・(20)・5 011 JF28—64 *4

16 神淨成 神淨成 □淨人「龜□」秦弥竹「龜」金刺池主
・鈴守 戊「龜」亥「龜」廣「子」秦弥武「丑」弥武武武「寅」寶○

「上□□□」大伴總道「龜」他田廣万呂「他□□□□」大伴廣□「龜」
・金刺池主 □□神淨 □池 大□□国 池田 □麻呂 「□」
謹啓 亥「□」子「□道」池 大伴子□寅□□
・鈴守 物部廣「鈴守」金刺池主 錦部家□「□」池「神淨□□」

506・(54)・6 081 JF28—76+JF27 *3

17 東門 〔等力〕

府生從七位上勳十一□

(385)・(45)・8 081 JF29—67 *2

19 少尉正六□

(97)・(9)・2 081 JF28—40

南東門

20 少志伊勢□

□十九枚□
(100)・(17)・6 081 JF28—89 *4

18 〔大カ〕
□尉外正五位下 (97)・18・2 081 JF29—55

- 21
 - [近衛少カ]
□□□□外従五位□□
 - □□□□□□ 丸部咋麻呂
 (213)・(8)・5 081 JF29—81
- 22
 - □□□□
 - □□殿「□□」四人紀將監曹司 □□
 年二月十四日近衛金刺老
 (168)・(20)・4 081 JF28 *5
- 23
 - 將監 □□
 (104)・(40)・8 081 JE29—44
- 24
 - □□三人 右衛士四人 中衛四人 近衛三人□□□□
 - □□
 (326)・(28)・5 081 JE28—40 *3
- 25
 - 中衛大石嶋 (72)・(21)・2 081 JE27—51 *4
- 26
 - 府生□□□□首
□□□□□□□□□□
 - □□□□□□□□□□ 秦□□□□
 [廣津カ]
 (255)・(28)・3 081 JE28—66
- 27
 - 主 □□
 衛士□□二人
 [廿カ]
 (253)・(20)・5 081 JE29—55
- 28
 - 酒司別当 (188)・18・4 019 JE28—54
- 29
 - □□□□□□□□□□ [五カ]
 葛井連根主カ
 (147)・(5)・3 081 JE29—67
- 30
 - 従七位 (72)・(14)・2 081 JE29—67

31

□□
 □□ [山代忌力]
 □□ 大初位下阿倍朝臣東□
 □□ 臣繼麻呂 從八位下勳十一等笠難波臣公麻呂 伊和公人上
 □□ 大初位上輕我孫草麻呂 勝部□
 □□ □□
 □□ 田口朝臣家繼 梁田王 己西部王
 □□ 已上五世 □□ (270)・(28)・5 081 JF28—90 *4

32

□里人 大伴牛主 安曇伊世万呂 已上四人 □□□□
 長谷部□万呂 矢田部山守
 安曇秋長 大伴乙万呂 (327)・(50)・5 081 JF29—67

33

□四人官人 一人府生 [府生力]
 □□ 從七位上高屋真□ 神沙弥
 [多力]
 □紀伊加麻呂 (328)・(20)・7 081 JF29—69 *2

35

□□ 大初位上台忌寸廣額□ 秦忌寸月
 (189)・(25)・5 081 JF30—70

34

□□ 朝臣 [麻呂力]
 □□ 正八位下車持川□
 □□ 位上高麗朝臣鈴麻呂 從八位上□□
 麻績門万呂 □□ 物部□□
 □□ 長谷部淨成 長谷□□
 (178)・(20)・5 081 JF28—54

36

□□ 无位糸井連人足 (266)・(10)・6 081 JF29—81

37

□□ 子十二月□□ 丈部益 [山力]
 □□ [阿刀力] □□□□
 (290)・(16)・3 081 JF29—44 *4

- 49 下毛野老 秦男川
160・(18)・5 081 JF29—56 *4
- 50 玉手牛養 右三人
(227)・(30)・7 081 JF28—64
- 51 丹波三刀良□
□ □
(213)・(48)・8 011 JF28—77
- 52 □部□
長淨足
(114)・57・2 081 JF28—40
- 53 額田部宿祢真□
(79)・27・1 019 JF28—42
- 54 □□〔綱カ〕
穂積
(71)・(13)・3 081 JF29—44
- 55 ・水取継成 □□
・瓜藏垣豊 (144)・(28)・8 011 JF29—57
- 56 □□□人□
物部常□
182・28・2 011 JF28—66
- 57 矢田部常人
(102)・(16)・4 081 JF29—68
- 58 近江国〔州カ〕野郡人車持子公今□
(ヤ) (ヤ)
(122)・22・8 019 JF28—76 *4
- 59 ・□道主
・□□□
(100)・(21)・4 081 JF27—75
- 60 ・家万呂
枚万呂
・益
・益
□□
(56)・(56)・9 011 JF28—66
- 61 姓名〔勿无カ〕
□□
355・33・2 011 JF28—30
(表裏トモ天地逆ノモノモ含メ削リ残リノ墨痕多敷アリ。)

72	・ 〇千文寶龜二年四月 ・ 〇貫仕丁蝮部虫人	101・17・3 011 JE29—55 *5	80	年魚鮓	92・26・5 032 JE29—43 *6
73	〇新錢八十文	60・26・3 011 JE27—51 *8	81	葦魚□	51・12・4 032 JE29 *6
74	佐保芹	212・18・3 051 JE29—43 *6	82	辛螺頭打	125・21・3 031 JE29—55 *6
75	坂合葉薊	190・20・3 051 JE29—55 *6	83	蝻	65・16・3 032 JE28—54 *6
76	紫草六十八斤 中品	168・20・4 032 JE29—57 *6	84	白米卅八斛 黒米□	(165)・27・2 081 JE27—50 *5
77	豉納三斗八升	133・12・4 032 JE28—66	85	百卅	64・24・3 051 JE29—69 *8
78	・ 煮堅魚一籠 盛十節 ・ □人 大三升	110・21・2 033 JE27—50 *6	86	・ 右兵衛府奏右右兵衛府□ ・ 高海道勲為為月秦道明□及及及及及 道□高有 (表裏トモ他ニモ多数習書アリ。)	(157)・11・4 019 JD29—31 *8
79	鯛味腊 四切	137・16・3 051 JF27—87 *6			

108	<ul style="list-style-type: none"> • 供位□ 位位 • 供位位位 □□ • 故故 人故 □ • 故故 故故故故 	169・38・6 011 JF29—81	
109	<ul style="list-style-type: none"> • 興興興興興興 □□□□□□ • 興興興興興興 □□□□□□ • 興興興興興興 □□□□□□ • 興興興興興興 □□□□□□ 	186・31・2 011 JF28—88	
110	<ul style="list-style-type: none"> • 及及及及 	(187)・20・3 019 JF28—88	
111	<ul style="list-style-type: none"> • □□齋齋齋 • □□ 	(192)・(24)・1 081 JF27—51	
112	<ul style="list-style-type: none"> • 之之 [都力] • 都都 □□ • 之之之之 □□ 	(80)・24・4 019 JF28—53	
113	<ul style="list-style-type: none"> • 属属 [属力] • 属属 □□ 	(98)・20・1 019 JF29—67	
114	<ul style="list-style-type: none"> • 廣廣 □□□□ 	(93)・(15)・3 081 JF30—82	
115	<ul style="list-style-type: none"> • 大宮 	091 JF27	
116	<ul style="list-style-type: none"> • 近衛 	091 JF27	
117	<ul style="list-style-type: none"> • □師 	091 JF27	
118	<ul style="list-style-type: none"> • 等阿倍 	091 JF27	
119	<ul style="list-style-type: none"> • 金刺意 	091 JF27	
120	<ul style="list-style-type: none"> • 上毛 	091 JF27	
121	<ul style="list-style-type: none"> • 棕椅 	091 JF27	

122 秦栗栖 091 JF29—56

123 □大夫藤原 091 JF27

124 正六位下勳五等 091 JF27

125 宝亀 091 JF27

126 羅羅羅羅羅 091 JF28—42

南北溝SD二七〇〇

127 ・式部召 紀人 土師時足

・安人倭麻呂 □ 中務 □ □
174・34・2 011 JK42 *1

128 [天平カ]
□ □ 三年 (48)・(10)・1 081 JJ42

129 □ □ 高宮廣足 (116)・(11)・2 081 JK42+JJ42

130 □ □ 朝臣 □ 091 JK42

第四〇四次調査(6BSSD区)
井戸SEE九五〇

131 西大寺三綱謹解申請申事 (231)・21・16 019 IC70 ㄞ *9

132 ・西大寺三綱 [綱カ]
□ □ □ (120)・(10)・3 081 IC70 ㄞ *9

133 [東園進カ]
□ □ □ (65)・(6)・4 081 IB70 ㄞ *9

134 東園 (52)・17・2 019 IC70 ㄞ *9

135 ・西市 [令カ]
□ □ (47)・(24)・3 081 IC70 ㄞ *9

136 □ 進上 (61)・(6)・4 081 IB70 ㄞ *9

148
 倉人
 〔西院カ〕
 淨女
 319・(16)・9 081 IB70 d

149
 丁拾參人給料
 395・30・6 011 IB70 d *9

150
 二人
 各四人
 〔人料カ〕
 堂堂堂堂
 (167)・(9)・3 081 IC70 d *9

151
 和部
 廣吉
 近習
 坏四
 〔御カ〕
 〔坊カ〕
 四具
 客
 (242)・(12)・4 081 IC70+IB70 d *9

152
 〔米カ〕
 〔蔓洗カ〕
 (116)・(19)・3 059 IC70 d *9

153
 〔食料カ〕
 (51)・(7)・3 081 IB70 z

154
 〔米カ〕
 寺主
 〔信〕
 (101)・(14)・2 081 IC70 d

155
 寺主
 可信
 (255)・(12)・3 019 IC70 d *9

156
 少
 〔寺カ〕
 〔料之内カ〕
 (145)・(13)・4 081 IB70 d

157
 〔一升カ〕
 上座
 (64)・(9)・2 081 IC70 e

158
・ 上 [座 可信カ]
・ (135)・(12)・6 081 IC70 d

159
[米] 可信 [基標]
(97)・(18)・5 081 IB70 d *9

160
・ [可信 基標 可カ]
(93)・(6)・3 081 IC70 d

161
 可信 [常深] 少寺主
(124)・(8)・2 081 IC70 d *9

162
・ 二人手長
・ (90)・(6)・3 081 IC70 d

163
 [五日目代カ]
 [安豊]
(63)・(14)・3 081 IC70 d *9

164
・ 目代
・ (両面トモ重書多数アリ。)
(62)・(22)・2 081 IC70 d

165
・ 慈 [登カ]
・ (50)・(6)・3 081 IC70 d

166
三人
(39)・(7)・2 081 IB70 d

167
 [白米]
(50)・(6)・5 081 IC70 d

168
 [酒参升カ]
(79)・(6)・3 081 IZ70 n *9

169
 [塩カ]
(24)・(4)・4 081 IB70 c

170
・ 伍升
・ (61)・17・2 081 IC70 c

- 171 □一升 (55)・16・3 081 IC70 e
- 172 □□升半 □□□□ (165)・(5)・4 081 IC70 d
 - ・□□□□
- 173 □四合 091 IB70 e
- 174 □□□□□□□□□□ (三月六日カ) (125)・(10)・5 081 IC70 d
 -
- 175 □□ (潤カ) □三月十日 □□□ (153)・(12)・3 081 IB70 e *10
- 176 三 (月カ) (46)・(6)・5 081 IC70 d
 -
- 177 五月□□□□□□□□ (135)・(7)・4 081 IB70 d
 -
- 178 □□ 八月四日 (141)・(16)・5 081 IC70 d
 -
- 179 □□□□ (59)・(7)・5 081 IB70 d
 -
- 180 □□□□ (112)・(7)・3 081 IB70 d
 - (十七カ)
- 181 十二月十九日 (30)・(11)・1 081 IC70 d
- 182 越前国足羽郡野田郷戸主□ (109)・20・3 019 IC70 e *10
 - 白米五斗延曆五年十一月
- 183 □都伎部米五斗 正月廿三日 (95)・18・1 059 IC70 d *10

184 人戸〔同カ〕告刀自女二斗

〔平カ〕八遲三斗

(145)・19・5 059 IC70 d *10

185 〔庄カ〕黒米五

〔延カ〕
□ 曆十一年十二月八□

(82)・15・3 081 IB70 d *10

186 西大赤江南庄黒米五斗

・ 延曆十一年十二月十一日吉万呂

151・19・3 051 IC70 d *10

187 西大赤江南庄黒米□□

〔延カ〕

■ 上

126・16・5 051 IC70 d *10

188 〔江南庄カ〕

□□□□

・ 延曆十□〔一カ〕

(51)・19・5 059 IB70 d

189 □ 庄白米五斗

〔年カ〕
□ 六月五日吉万呂

(96)・15・4 059 IC70 d *10

190 西大寺赤江北庄延曆十一年地子

・ 秦浄人黒米五斗

116・11・4 051 IB70 d *10

191 □□□〔福カ〕得

〔延曆十一カ〕
□□□□年十月廿四日

155・28・5 051 IC70 d *10

192 □ □

・ 延曆十一年十二月十日□□□□

(101)・(6)・5 081 IC70 d *11

193 □ □

・ 白米五

(58)・22・3 039 IC70 d *11

194 五斗一升六合

91・13・4 051 IB70 d *11

217 □三日蔓 □ 091 IC70 c *12

216 □食 □ [間カ] 091 IC70 d

215 □間食 □ 091 IC70 d *12

214 □上 □ [進カ] 091 IB70 e

213 請酢卷升二合 091 IC70 d *12

212 □ [大角カ] (116)・(7)・2 081 IC70 d

・道道過過過 [過カ]

211 見見見見見見見見 091 IB70 d (92)・(7)・6 019 IB70 d

210 学学 [学学学カ] 280・20・7 011 IC70 d *9

209 □有 [有カ] (156)・12・8 081 IB70 d

208 卍 □ (23)・(57)・3 061 IC70 d

227 西大寺西大寺西大 [寺カ] 091 IB70 d *12

226 □料 十日 091 IC70 e *12

225 二日 □ 091 IC70 d

224 廿三日 □ □ 091 IB70 d

223 十一月廿 091 IC70 d

222 廿一日用米五 [升廿カ] 091 IB70 e *12
 (221下222上同一木簡ノ削屑。)

221 □月十八日用米三升四合 [十カ] 091 IB70 e *12

220 □□□□ [七月六日カ] 091 IB70 d

219 □曆十一年十一月九日正七位上 [延カ] 091 IB70 d *12

218 備料 □ 091 IB70 c *12

238	〔目カ〕 □代慈登	091 IC70 d *12	249	二斗九升	091 IC70 c *13
237	目代慈登	091 IC70 d *12	248	□直六石一斗	091 IC70 d *12
236	〔少僧都カ〕 □□□	091 IC70 d	247	閘	091 IB70 e *12
235	□□ □西□	091 IB70 d *12	246	□刀自	091 IC70 d *12
234	大〔寺カ〕 □□	091 IC70 d *12	245	□□□〔女カ〕 □□□	091 IC70 d
233	□〔西カ〕 □大寺	091 IC70 d *12	244	□〔麦カ〕 □女	091 IC70 d
232	□〔西大寺カ〕 □□	091 IB70 d	243	□吉女	091 IC70 d
231	□西大寺	091 IC70 d	242	□山階藤原	091 IB70 d *12
230	西大寺□	091 IB70 d *12	241	□〔綱カ〕 □□	091 IB70 d
229	西大寺□	091 IB70 d *12	240	〔目代カ〕 □□	091 IC70 d
228	西大寺□	091 IB70 d *12	239	目代慈□	091 IC70 d

260	259	258	257	256	255	254	253	252	251	250
二合	升二合	肆升七	二升五	五升	五升	六升五	斗升年	天下水尋時力	斗五升力	二斗升
		091 IC70 e *13	091 IC70 e *13	091 IC70 d	091 IB70 d	091 IC70 c	091 IC70 擲丑 *13	091 IC70 d *13	091 IC70 d *13	091 IC70 d
	268		267		266	265	264	263	262	261
	三升九		四升三		肆四升	升	又升	一升	五升	石斗
		091 IC70 d		091 IC70 d *13		091 IC70 d	091 IC70 d	091 IB70 d	091 IC70 d *13	091 IC70 d *13

279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269
□□二百九十	□司	枚□ _[用力]	□□ _[枚力]	廿三枚 □	□右被十一□ _[具力]	六条□	一条調布 □	□漬菜	心太五斗	□若 _[米力] □干□
091 IC70 c *13	091 IB70 d	091 IC70 d	091 IC70 d *13	091 IC70 d *13	091 IC70 d *13	091 IC70 d	091 IC70 d *13	091 IC70 e *13	091 IC70 d *13	091 IC70 d
290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280
東東東□	□ _[足力] 足之大□	□□大□菌大□ _[狛力]	乙□□□□□ _[己巳亥力]	□論記□	□四	□五	□十二	廿七少□	将□七十□	壹□ _[伯力]
091 IC70 d	091 IC70 d *13	091 IC70 d *13	091 IB70 d *13	091 IB70 d	091 IC70 b	091 IB70 c	091 IB70 e	091 IC70 d	091 IC70 e *13	091 IC70 d

301 卷 □
 300 □酒力
 299 恵 □
 298 □女
 297 石可 □
 296 □御力
 295 □御力
 294 □蔓
 293 □太
 292 量 □
 291 □里 □

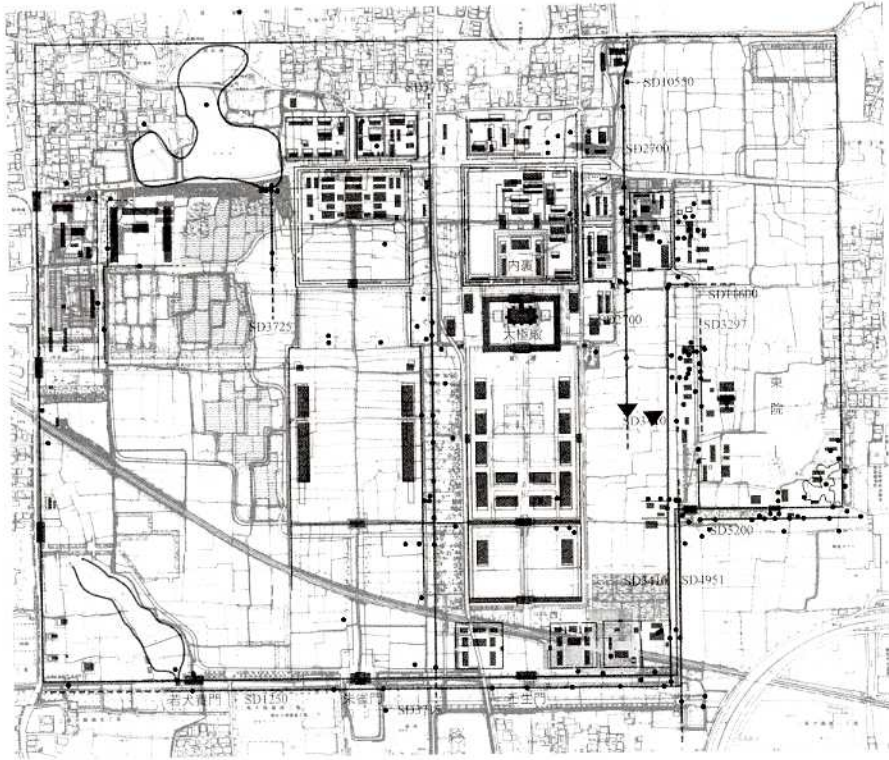
091 IB70 d
 091 IB70 d
 091 IB70 d
 091 IB70 d
 091 IB70 d
 091 IB70 d
 091 IB70 d
 091 IB70 d
 091 IB70 d
 091 IB70 d
 091 IB70 d

312 道 □
 311 科
 310 □太 □
 309 □東 □
 308 葉 □
 307 □若 □
 306 □芋 □
 305 □合
 304 □大 □
 303 □見 □
 302 □謹力 □

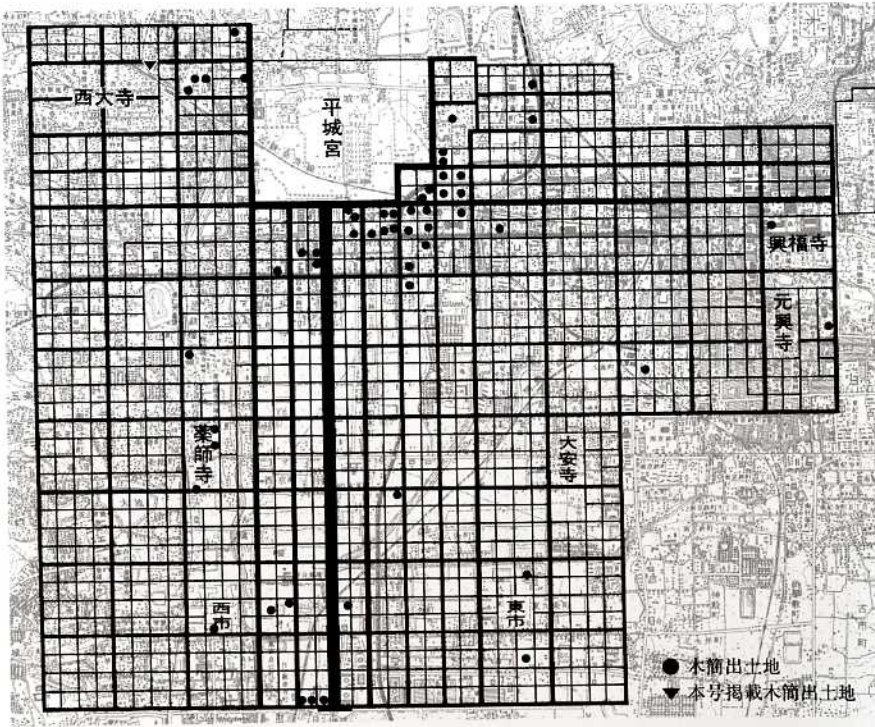
091 IC70 d
 091 IC70 d
 091 IC70 d
 091 IC70 d
 091 IC70 d
 091 IC70 d
 091 IC70 d
 091 IC70 d
 091 IC70 d
 091 IC70 d
 091 IC70 d

『平城宮発掘調査出土木簡概報』(三十八)訂正

313	道力 □	091 IC70 d	36	東菌進上大根三升 知佐二升 (232)・(17)・3 081 IC70 p *14
314	長力 □ □ □	091 IC70 d	38	進上 大角豆拾把 七月十日僧信梵判収目代安豊 270・22・4 011 IC70+IC70 p *14
315	寺 □	091 IC70 d	51 + 66	少戸主波太郎直万呂戸田料大豆五斗 (218)・22・4 039 IB70+IC70 p *14
316	冊 □	091 IC70 d	55	政所千繩稻主 中院浄主 西院守 西倉道長 (338)・(33)・9 081 IB70+IC70 p
317	女	091 IC70 d	71	西成乎智廣少戸白二斗五升 佐々貴山公時守戸白米二斗五升 202・24・3 019 IC70 p *14
318	炭 □	091 IC70 d	54	塩耆升 白米太合西大寺寺 (159)・(17)・1 081 IC70 p *14
319	料 □	091 IC70 p *13		
320	飯 □	091 IC70 d		
321	粥 □	091 IC70 d		



平城宮木簡出土地点図 ● 木簡出土地
▼ 本号掲載木簡出土地



平城京木簡出土地点図

二〇〇九年十一月二十五日印刷

二〇〇九年十一月三〇日発行

平城宮発掘調査出土木簡概報 (三十九)

編集・発行 独立行政法人国立文化財機構

奈良文化財研究所

〒六三〇一八五七七

奈良市二条町二一九一

TEL 〇七四二一三〇一六八三七

FAX 〇七四二一三〇一六八三〇